

## 第2回次世代育成支援対策推進協議会議事録

### 1 日時

平成25年11月19日(火) 19時00分~20時35分

### 2 場所

熊野町役場3階 301・302会議室

### 3 次第・資料

別紙のとおり

### 4 委員からの質問事項及び回答

#### 2 議事(1) 子ども・子育て支援新制度に係るニーズ調査の内容等について

(会長) 議事に入る前に、新制度の目的や目標、熊野町としての独自の取り組みなどがあればご説明いただければと思います。

(事務局) 国の方針として3つのポイント(質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供 保育・教育の量の拡大 地域の子ども・子育て支援の充実)があります。

(会長) ニーズ調査の2頁目の説明が、専門的で難しいと思います。

(柿岡委員) これは結局、地域でどのくらいのサービスが必要なのかを数字で示していきまうということが書かれています。最終的に、2頁目上の3つ目の丸のところにある、保護者が子育てについての責任を果たすこと、しかし、果たせないお母さんがおられる場合は地域が支援しましょう、というのがクドクド書かれています。

(事務局) 議事(1)について説明【就学前】

(会長) 議事(1)【就学前】についてご質問、ご意見がありましたらお願いします。

(柿岡委員) 10頁目、問16の選択肢13について、「障害」とすべて漢字で表記されていますが、21頁目、問29では「障がい」と表記されているので、どちらかで統一されてはどうでしょうか。

(事務局) 「障がい」の方で統一させていただきたいと思います。

(柿岡委員) 2頁目の説明は国が示しているものと同じでないといけないのですか。上の3つの項目について、それぞれ最後の2行目だけにするなど、すっきりさせたいです。

(事務局) 国が示している資料で青字(必須事項)として掲載されているため、現時点ではそのまま入っていますが、確認をしておきます。

(清代委員) 我々も回収率を上げたいし、きちんと理解した上で回答いただきたい思いもあるので、県とも調整していきたいと思います。

(金澤委員) これがいきなり来ると書く気がなくなり、あとが続かないかなと感じました。

(染川委員) 新規の設問と前回の設問とありますが、前回があったのですか。

(事務局) 第1回会議で配布している冊子が前回にあたります。

(山野委員) 最初の文章が、ぎっしり文字がつまっているから読みづらいので、抵抗感があります。少なくしてわかりやすくしてはどうかと思います。

(事務局) 柿岡委員がおっしゃった頁以外に、設問頁も含めて全体的にという意味ですか。

(山野委員) 設問などは、比較的読みやすいと思います。

(金澤委員) 5 頁目、就労の状況について。夜勤等がある人はどのようになるのでしょうか。(介護や看護師など) そういう方のほうが育児等に困っておられると思うのですが。

(事務局) 問 10 では勤務形態を、問 10-1 では家を出る時間や帰宅時間などをお聞きして、そこでそういう方は把握できていると思っています。

(金澤委員) 企業の中に保育所施設が整備されていけば良いのですが、そうでない方はどうしているのかということはありません。(親を頼るなど) 仕事が多様化しているの、困っているという声を聞いています。

(事務局) 通常勤務の形態の中に、夜勤が位置づけられているのかどうかだと思つので、検討してみます。

(清代委員) 夜勤あり、なしを丸できるようにしておけば把握はできますね。

(金澤委員) 問 12 の選択肢「5」は、「自分の」ではなく「自分で」ではないですか。

(柿岡委員) 「自分で」というのをすべてとって、「子育てや家事に専念したい」だけで意味は通じるのではないのでしょうか。

(事務局) そのように修正・検討します。

(藤森委員) 21 頁目、問 29 について。タイトル【12】に「地域で」と表記してあるが、選択肢の中に特別支援学校などの記載がなく、含まれないという考え方ということなのか。この設問からどういったことを引き出したいのかがわかりにくい。例えば、選択肢「1」が多くあがったときに困るような気もします。能力が不足しているということであればわかる気もしますが。

(清代委員) 保護者としてもっと私たちのことを理解してほしいという思いが出てくるのかと。

(柿岡委員) 選択肢「1」が多く出たら、それは住民の方の中で、「理解してくれていない」という認識が多いということになりますね。

(会長) 主語がはっきりしていないですね。

(清代委員) この問い自体が、「障がいのある子を持つ保護者」に聞いているのかどうか。「一般の保護者」に聞いているのであれば、少しわかりづらいかもしれない。

(事務局) ある意味、抽象的なものに留まると思いますので、方向性を探るところです。主語はあくまでもあて名のお子さんの保護者となります。回答結果をすべて対応しなければならぬかどうかについては、結果を受けて、さらに検討していく必要があると思います。

(柿岡委員) どういう障がいを想定されていますか。

(事務局) 発達障害です。

(会長) 設問の意図、目的を明確にしていけないといけませんね。そのあたりもう一度検討されてはどうでしょうか。

(事務局) 検討・研究させていただきます。

(事務局) 議事(1)について説明【小学校】

(金澤委員) 10 頁目、問 19 について。「児童館」は熊野町にはないので、説明があった方がよいのではないのでしょうか。

(清代委員) 熊野町にはないということを断った上で、「児童館とはこういうものです」という説

明を入れた方が良いかと思えます。

(事務局) 7頁目に、「放課後子ども教室とは」という定義を記載しておりますので、このような形で表記させていただきたいと思えます。(熊野町にはないということも含めて)

(染川委員) 就学前児童と小学校児童がともにいる家庭は、就学前児童用だけ届くのですか。

(事務局) はい、そうです。

(染川委員) 例えば、小学校児童用しか届かないと、小学4～6年生の放課後児童クラブのニーズが書けないですね。

(事務局) 両方の調査票に設問を入れることも検討しましたが、設問数が増える関係もあり、今回は就学前児童用にてニーズを把握するという考え方で実施を考えています。

(清代委員) この点については内部でも検討したところで、現在、就学前児童用のアンケートで、4年生以降の放課後児童クラブのニーズを聞く予定としておりますので、そこで把握したいと考えています。例えば、1年生と3年生がおられる家庭には、どちらかお一人にしか届かないため、絶対量が少なくなることもあって、小学生児童用には入っていない状況となっております。

(柿岡委員) 現在の内容で良いのではと思えます。

(金澤委員) 3頁目、問1について。小学校区で聞くのか、現在通っている学校で聞くのか。学校区と通っている学校では違ってくることもあるので。

(清代委員) 小学校用については、「現在どちらの学校に通っていますか」のみにして、地域は除く形で修正させていただいた方が良いでしょう。

(染川委員) 今回のアンケートは回収率をどの程度見込んでいるのでしょうか。例えば、要望を出して、どのくらいの数値が上がって初めて実施に移されるものなのでしょうか。こういう場に参加されていない保護者の方には、「どうせ書いても少数意見はね」というご意見もあるのではと思えます。

(事務局) 前回のニーズ調査の回収率について、就学前が61.3%、小学生が85.1%でした。今回も回収率をトータル80%で見込んで考えています。また、具体的な施策にどう結びつけていくのかについて、前回の調査結果もそうなのですが、全国的に高めにニーズが出る傾向にあります。例えば、保育所や放課後児童クラブ等のニーズ結果を基にそのままつくと、かなり器の大きなものになることも考えられます。最終的には、市町単位で個々に考えていくようにはなるとは思いますが、現段階では具体的な方向性などは定めていません。国においては、4月から子ども子育て会議を立ち上げて、ニーズ結果と現状とのすり合わせ作業をどのようにすべきかを議論している状況ですので、具体的な答えは現状できないところです。

(染川委員) おおよその目安(休日保育を求めている人が全体の何%だったら等)もないということですね。

(事務局) 調査をもって、方向性を検討していく段階になります。

(清代委員) ニーズ調査の結果については、こちらの会議を12月に子ども子育て会議とし、保護者の方も少し増やして、今回の調査結果を踏まえながら、次の計画にどのようなことが必要になってくるのかを検討していけたらと思えます。まずは住民の声に対してどこから対応していくのかなど、会議の中でご意見をいただければと思えます。

- (山野委員) 私立の学校に通っておられるお子さんもいると思うので、「その他」という項目を追加されてはどうでしょうか。
- (清代委員) そうですね、ありがとうございます。
- (猪野委員) 就学前児童、小学生児童ともに、満足度に関する設問がありません。行政としては耳が痛い部分になるかと思いますが、必要ではないでしょうか。(山口県防府市の調査票がわかりやすかった) また、子ども子育て会議を立ち上げてニーズ調査を行わないと、後から入ってこられる委員さんはもう遅いですよね。
- (事務局) 熊野町の現在の子育て施策に関する満足度・重要度については、確かに耳が痛い点ではありますが、住民の声をということでは必要かもしれないので検討します。
- (清代委員) 熊野町の子ども子育て会議は、こちらの会議を主体で考えており、現在 15 名のところ 20 名体制で考えているところです。スケジュールとしては大変厳しいところではありますが、できれば今回の会議でアンケートの項目については議論いただきたいと思っています。現在、幼稚園の保護者が入っていないということはありますが、ニーズ調査の検討については、現在の委員さんの中で網羅できているのではないかと考えております。どのような施策が必要なのかについては、今後新たな委員会の中で検討させていただけたらと考えております。
- (猪野委員) コンサルがまとめたニーズ調査結果だけではなく、生データも見せていただきたい。少数意見も大切にしたいと思うので。
- (事務局) ニーズ調査の結果、一次集計段階での提供ということであれば、データは各委員さんへ提供したいと考えております。
- (清代委員) サンプル対象について訂正をさせていただきます。小学校用については、就学前がない世帯(小学4年生以下)、就学前用については、すべての世帯といたします。また、こちらのニーズ調査について、満足度というお話も出ましたが、保護者の希望を客観的に数字で見たいというところでもありますので、先ほどの障がいのお話も含め、行政は行政なりに進めてはいますが、住民の方にとってはまだまだ足りないというご意見もあろうかと思えます。したがって、教育委員会とも調整・協議しながら、設問を考えていきたいと思えます。
- (石山委員) どこまでもニーズを吸い取っていくということに私はおそろしさを感じています。それは、親の立場のことばかりのもので、それが施策にすべて吸い取られてしまうと、子どもの育ちを見て決めていく冷静な目がないと。色々なご家庭があることも承知しており、必要なこともありますが、もっと実際に最後に施策となるときには、丁寧な点検がいるのではと思います。
- (金澤委員) 子育てガイドブックはいつ、つくられたのでしょうか。幼稚園が入っていないので、入っても良いのではないかと思います。
- (清代委員) 平成 23 年度につくっており、次回新たにつくる際には幼稚園も入れたいと考えております。ホームページについても、幼稚園とはこれまで連携も薄かったように反省しているところですので、そちらを含めて検討していきたいと思えます。
- (柿岡委員) 冒頭の文章をわかりやすくしていただければ、石山委員のおっしゃられたことが伝わるのではと思います。

(清代委員) 県とも協議していきたいと思います。

(金澤委員) どうしても入れなければならないのであれば、目的なども添えて最後の頁にしてもらうと良いと思います。

(清代委員) ニーズと実際量を勘案しながら、こういった形で事業を進めていくのが良いのかを考えて計画をつくっていかないといけないと思います。子ども子育て会議についても、必要に応じて部会を設けるなど考えております。

(事務局) 本日色々ご意見いただいた内容について、修正したものを再度皆さんに見ていただく場を設けたいと思いますが、県への報告など、時間的な都合も含めて、持ち回りで皆さんにチェックいただくようにしたいのですが、いかがでしょうか。

(委員) 異議なし。

次回は、平成 26 年 2 月に開催予定

以上